

令和3年度 一宮中学校 学校経営方針

1. はじめに

学校経営は「教育目標の実現を目指し、全教職員が組織的な教育活動を展開し、生徒の能力を高める営み」である。学習指導要領、山梨県学校教育指導重点、笛吹市学校教育ビジョンを受け、基本理念である「生きてはたらく力」を育む学校教育を推進する。

本校のある笛吹市一宮町は、果樹栽培を中心とした農業景観の残る落ち着いた地域であるが、農業従事者は年々減少しており、現在では在籍する生徒の10%程度の保護者が従事するに留まっている。また、本校生徒の家庭状況を見ると、一人親家庭は全家庭数の14%を占めており、また就学援助家庭も15%以上といずれも増加傾向にあり、個々に応じたきめ細やかな対応がより一層求められている。

このような状況下にある本校の経営方針は、「生徒一人一人が自分の持ち味を十分に活かし、人間的に成長していく場としての学校教育を創造し、実践していく」ことを念頭に、学校教育に求められる教育機能を果たすと共に、変化に富んだ世の中に適切に対応することができる「生きてはたらく力を持った大人」への育成の第一歩としての役割を真摯に果たすことであると考えている。

<中学校の果たすべき教育機能>

(1) 文化の確かな伝達

社会的存在としての人間が豊かに生きていく為に必要な基礎的・基本的な知識や技能、更に行事や生活習慣等の文化を確実に伝えていくことが肝要である。

(2) 調和のとれた人間形成

個性の尊厳や価値を尊重し、心身共に健全で調和のとれた人間づくりが学校の重要な使命である。心の教育や人間づくり教育に力を注いでいくことが肝要である。

(3) 「生きる力」を持った生徒の育成

社会より学校教育に、主体的に変化に対応し、人間的として「生きる」ことのできる子どもを育てることが要請されている。自ら学び、自ら考える姿勢を重視し、生涯学習の基礎的な資質の育成を目指すことが肝要である。

2. 笛吹市学校教育ビジョン

◇めざす子ども像 『心豊かで優しさあふれるふえふきの子』

◇基本目標

(1) 「生きてはたらく力」を身に付けた子どもの育成

(2) 人やふるさとを大切にすることの育成

3. 一宮中学校のめざす学校像・学校教育目標（めざす生徒像）・めざす教師像

テーマ：『明るく、元気に、たくましく』

(1) めざす学校像（我が子を通わせたい学校）

①生徒一人一人が自分の持ち味を発揮し、人間的に成長していく学校

②全ての教育活動は生徒を基点に考える（生徒が学校の主役）

「生徒にとって良いことか・悪いことか」を価値判断の基準とする。

③地域・生徒・保護者の期待・信頼に応えられる学校

④常に環境が整っている学校

(2) 学校教育目標（めざす生徒像）

- ①深く考え、常に真実を求める生徒
- ②健康で勤労を愛好する生徒
- ③共同して物事をやりぬく生徒
- ④自主的で実践性に富む生徒
- ⑤豊かな心情を持つ明るい生徒

※学校教育目標の達成のために、各学年・各学級で具体的な目標を掲げ、生徒・教師が心を一つにして取り組む。

(3) めざす教師像

- ①切磋琢磨する教師
- ②自己研鑽に励む教師
- ③子どものせい所為にしない教師
- ④我が子の担任であって欲しい教師

3. 学校経営の基本方針

山梨県学校教育指導重点、笛吹市学校教育ビジョンをもとに、特色ある学校を創造するために、地域の状況・生徒の実態等を活かした教育課程の編成・実施・検討・改善に努め、協同指導・援助体制を確立し、学校教育目標の具現化を図る。

学校経営を進める上で、特に重視したい点は、いつでも、どんな時でも、人間尊重の精神を大前提にすることであり、学校教育が公教育として営まれる以上は、諸法令に準拠し、教職員自らが研究と修養に努め、資質向上を図ることである。また、学校は地域社会を基盤として成り立っており、地域の教育への期待を常に深く掴み、それを具体化する責任がある。

(1) 『確かな学力の定着』

基礎基本の徹底と「学ぶ意欲・確かな学力」を身につけた生徒の育成

(2) 『豊かな人間性の育成』

豊かな心（思い遣り・感謝・素直な心）を持ち、善悪の判断のできる生徒の育成と基本的生活習慣の確立

(3) 『健全な心身の育成』

心身共に健康で自他の命を大切にする生徒の育成

(4) 『開かれた学校の創造』

学校と保護者・地域社会との更なる連携と協働ができる学校の創造

4. 重点（具体的な取組）

(1) 『確かな学力の定着（知）』

・生徒が、学ぶ意欲と態度を身につけ、自己実現をめざすことが出来るよう、校内研究を中心に据え、教育活動の創造と実施を推進する。

・「確かな学力」の育成と学びを深める教育の実現のために、学習習慣の確立を図る。

・「基礎学力の徹底」と「学ぶ意欲の育成」に取り組む。

・豊かな言語活動に努める。

(朝読書・朝学習の有効活用、家庭学習の習慣化、長期休業・三者懇談時の補習)

・ICTを活用した授業づくりに取り組む。

(2)『豊かな人間性の育成(徳)』

・規範意識や善悪を弁える感覚は、知育・体育より優先すべきものであり、全職員による統一した生徒指導体制を構築する。

・「基本的生活習慣の定着」をめざす。

・道徳教育の充実と共に、行事・体験活動を通して道徳的実践力の育成を図る。

・「豊かな人間性・豊かな心の育成」を目指し、「読書活動の推進」「生徒会活動(委員会活動・部活動)の充実」「キャリア教育の実施」「ボランティア活動の推進」「教育相談の充実」に力を入れる。

(3)『健全な心身の育成(体)』

・生命尊重の精神の下、健康・安全教育の充実に努める。

・個性を配慮した指導に努め、教職員と生徒が信頼関係を築き、生徒一人一人が大切にされる楽しい学校づくりを進める。

・体力測定の結果から課題を明確にし、健全な心身の育成に向けて日常的な取組を行う。

・給食指導を通して食教育の充実を図る。

・不登校生徒の減少に取り組む。

(きめ細かな生徒指導、SCの活用、生徒情報の共有化と同一歩調)

※「生きてはたらく力」は、「確かな学力」「しなやかな心」「丈夫な体」を併せ持つ「知・徳・体」のバランスのとれた力のことと定義されている。

(4)『開かれた学校の創造』

・昭和22年に一宮中学校・浅間中学校・相興中学校がそれぞれ発足し、昭和33年に三校が統合して一宮町立一宮中学校となった。その後、平成16年の笛吹市の誕生と共に笛吹市立一宮中学校となり、今年統合から61周年を迎える歴史と伝統のある学校である。町内の多くの方々が本校の卒業生であり、地域の本校に寄せる期待は大きい。

・「子どもの幸せを願って」学校・家庭・地域との連携を強化し、地域に根ざした特色ある学校づくり、開かれた学校づくりに努める。(各種通信・学校評価の活用)